

ワクチン情報の説明

帯状疱疹の生ワクチン、ZVL: 知っておくべきこと

Many Vaccine Information Statements are available in Japanese and other languages. See www.immunize.org/vis

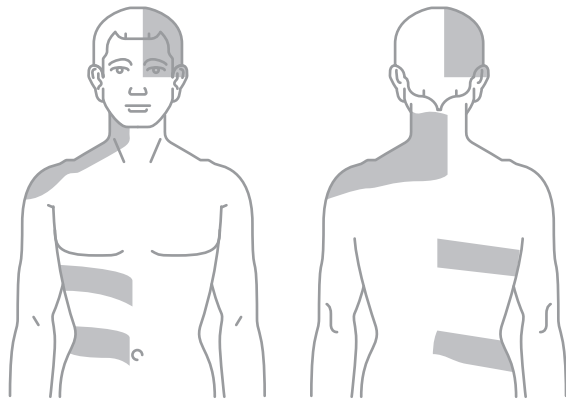
多くのワクチン情報の説明が、日本語やその他の言語で利用することができます。
www.immunize.org/vis を見てください。

1 帯状疱疹とは何ですか？

帯状疱疹(帯状ヘルペスとも呼ばれることがあります)は痛みを伴う皮膚発疹で、水疱ができることもあります。帯状疱疹は水痘帯状疱疹ウイルスによって起こります。これは水疱瘡(みずぼうそう)を起こすウイルスと同じものです。水疱瘡にかかると、このウイルスはあなたのお体のなかに住み続け、後で帯状疱疹を引き起こす場合があります。

他人から帯状疱疹を移されることはありません。ただし、水疱瘡にかかったことがなく、水疱瘡ワクチン接種もしたことがない方は、水疱瘡を他人から移される場合があります。

帯状疱疹の皮膚発疹は通常、顔やお身体の片側に現れ、2~4週間で治ります。その主な症状は痛みで、ひどい痛みとなる場合もあります。その他の症状として発熱、頭痛、悪寒、胸やけなどが起こる場合もあります。非常にまれですが、帯状疱疹の感染により肺炎、難聴、失明、脳炎、死亡に至る場合があります。



約5人に1人の割合で、発疹が治まった後もひどい痛みがさらに長く続く場合があります。この長期間に渡る痛みは帯状疱疹後神経痛(post-herpetic neuralgia, PHN)と呼ばれます。

帯状疱疹は、若い方々よりも50歳代以上の方々に非常によく見られ、その発症リスクは年齢とともに増加します。またがんのような疾患、ステロイドや化学療法などのような薬剤で免疫系が弱った方々にもよく見られます。

米国では毎年100万人以上の方々が帯状疱疹にかかります。

2 帯状疱疹(生)ワクチン

帯状疱疹の生ワクチンは2006年にFDAにより承認されました。治験によれば、60歳以上の方々の場合、このワクチンにより帯状疱疹を発症するリスクが約50%減りました。これによりPHNの発症率を減らすことができ、ワクチンを受けたのに帯状疱疹にかかる一部の方々の痛みを減らすことができます。

なお、60歳以上の方に帯状疱疹の生ワクチンの接種を1回受けて頂くことをお勧めしています。

3 このワクチンを受けるべきでない方もいます

もしあなたが以下の項目に当てはまる場合には、ワクチン接種を行う医療従事者にそれをお伝えしてください。

- **重度の、命に関わるアレルギーを持っている。** 帯状疱疹の生ワクチンを1回投与した後、命に関わるアレルギー反応が起こったことがある方、またはこのワクチンの成分に対し重度のアレルギーをお持ちの方には、ワクチン接種を受けないことをお勧めする場合があります。ワクチンの成分についてお知りになりたい場合には、担当の医療従事者にお尋ねください。
- **妊娠している、または妊娠している可能性がある。** 妊娠している女性の方は、妊娠期間が終わるまで帯状疱疹生ワクチン接種をお待ちいただく必要があります。帯状疱疹生ワクチンを接種した後1カ月以上は妊娠を避けて頂く必要があります。
- **病気(がんやAIDSなど)または医学的な治療(放射線療法、免疫療法、高用量ステロイド、化学療法など)により免疫系が弱っている方。**
- **体調がすぐれない。** 風邪のような軽い病気のような場合には、当日にワクチンを受けることができる可能性があります。中程度または重い病気にかかっている場合には、おそらく回復するまでお待ちいただく必要があります。担当医師がアドバイスいたします。

4 ワクチン反応のリスク

ワクチンを含め、いかなる医薬品によっても反応が起こる可能性はあります。

带状疱疹生ワクチン接種を受けた方が、その後経験する可能性があるのは、

- ・注射した部位の発赤、痛み、腫れ、痒み
- ・頭痛

これらの症状は通常軽いもので、自然に治ります。

稀に、带状疱疹生ワクチンにより発疹や带状疱疹が起こる場合があります。

このワクチン接種の後に起こる可能性があること:

- ・ワクチン接種を含め、医学的な処置により失神する方もいます。約15分、間椅子にお座りになるか横になることで失神し転倒により怪我をするのを防ぐことができます。目まいや視力の変化、耳鳴りなどを感じたら、担当医療従事者にお伝えください。
- ・注射の後、通常の痛み以上に重い肩の痛みが起これたり、長く続く方もいます。このようなことが起こることはめったにありません。
- ・どのような医薬品でも重いアレルギー反応が起こる場合があります。ワクチン接種に対するこのような反応はおおよそ百万回の投与に1回と見積もられています。また反応が起こるとしたら、ワクチン接種後数分から数時間以内に起こる可能性があります。

あらゆる医薬品による場合と同じく、ワクチン接種により重篤な障害や死亡が起こる可能性はごくわずかにあります。

ワクチン接種の安全性は常にモニターされています。

詳しい情報につきましては、

www.cdc.gov/vaccinesafety/を見てください。

5 重度の問題が起きたら?

何を調べるべきでしょうか?

- ・あなたが心配している事柄についてお調べください。例えば、重いアレルギー反応、高熱、普通ではないふるまいなどの症状などです。

重いアレルギー反応の症状には、蕁麻疹、顔やのどの腫れ、息苦しさ、速い鼓動、目まい、倦怠感などがあります。これらは通常ワクチンを摂取してから数分から数時間で始まります。

どうしたらいいのでしょうか?

- ・**重いアレルギー反応**またはその他の緊急事態で待つことができないとお考えの場合は、9-1-1にお電話し、お近くの病院にかかってください。そうでなければ、担当の医療従事者にお電話ください。

後ほど、その反応を Vaccine Adverse Event Reporting System (VAERS) (ワクチン有害事象報告システム) に報告する必要があります。担当の医師はこの報告をファイルする必要があります。またはあなたご自身が VAERS ウェブサイト www.vaers.hhs.gov を通し、または 1-800-822-7967 にお電話し、報告することもできます。

VAERS は医学的なアドバイスを提供しません。

6 詳しい情報を知るには?

- ・担当の医療従事者にお尋ねください。医療従事者はワクチンの添付文書をあなたにお渡りするか、その他の情報源をお勧めする場合があります。
- ・現地または州の健康管理部門にお電話ください。
- ・Centers for Disease Control and Prevention (CDC) (疾病管理予防センター) の連絡先:
 - 電話 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO) または
 - CDCのウェブサイト www.cdc.gov/vaccines を見てください

Vaccine Information Statement Live Zoster Vaccine

2/12/2018

Japanese

Office use only

